

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-201633

(43)公開日 平成5年(1993)8月10日

(51)Int.Cl.<sup>5</sup>

B 66 B  
1/34  
3/02

識別記号

府内整理番号  
C 9243-3F  
N 7814-3F

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1(全4頁)

(21)出願番号

特願平4-12667

(22)出願日

平成4年(1992)1月28日

(71)出願人 000003078

株式会社東芝

神奈川県川崎市幸区堀川町72番地

(72)発明者 宮本 健治

東京都府中市東芝町1番地 株式会社東芝  
府中工場内

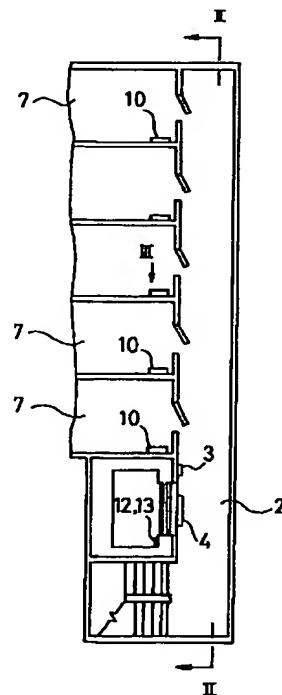
(74)代理人 弁理士 三好 秀和 (外4名)

(54)【発明の名称】 エレベーターの呼び登録装置

(57)【要約】

【目的】 共同住宅などにおいて、各居住者がエレベータを利用するとき、乗場でかご呼び鉤を押してから、かごが到着するまで時間が掛かり、特に冬季の開放廊下形マンションでは寒い中で待たねばならない。そこでこのような待ち時間の苛々を解消するエレベータの提供を目的とする。

【構成】 各居室内にかご呼び鉤、かご位置表示装置を設ける。これにより、かご位置を確認して適確にかご呼びができる待ち時間の無駄を省くことができる。



1

2

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】建屋各階の乗場にかご位置表示装置及び呼び登録用押釦装置を設けると共に、前記各階の各居室にも前記と同様のかご位置表示装置及び呼び登録用押釦装置を設けたことを特徴とするエレベータの呼び登録装置。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】この発明は住居用建物に適するエレベータの呼び登録装置に関する。 10

## 【0002】

【従来の技術】図5、図6を参照して従来のエレベータの呼び登録装置について説明する。

【0003】一般にアパートやマンションなどの住居用建物1において、建物の各階のエレベータ乗場2には、呼び登録用の押釦（上又は下）3と、かごがどの階にいるかを表示するためのかご位置表示用の位置表示装置4がそれぞれ設けられている。

【0004】乗場2にはかご5の戸に連動して開閉する乗場戸6が設けられている。 20

【0005】居室7は玄関ドア8を介して通路9及び乗場2に通じている。

【0006】このような構成であるので、居住者がエレベータに乗ろうとすると、乗場2まで行き、押釦3を押して呼び登録を行い、かご5が乗場に到着するのを待つて利用する。したがって、乗場に近い居室7の人はエレベータの利用が便利であるが、乗場から遠くの居室7の人は乗場2まで行くのに時間が掛り、乗場に行き着く直前に乗場戸が閉まったり、かごが出発してしまったり、或いは通過後だつたりするケースが多くなるなど非常に不便であった。

【0007】そこで、この問題の解決の一手段として、エレベータかごが停止する建物の各階の乗場にかごの位置表示用の表示装置4及び、呼び登録用の押釦3を夫々設けたエレベータにおいて、前記表示装置4及び押釦3とからなるメインの制御系とは別に、前記乗場に通じる通路9に、サブの制御系であるかこの位置表示用の表示装置及び登録用の押釦を設けた呼び登録装置による方式が提案されている（特開平02-237637）。

【0008】しかし、この方式では居室7から通路へ出てからでなくてはかごの位置が確認出来ず、かごが出発した直後にかごの位置を確認して呼び登録をした場合には通路に設けられた押釦で呼び登録した場合と乗場に設けられた押釦で呼び登録した場合とで、利用者がかごを待つ時間は変わりなく、発明の効果は十分に発揮されないと言う問題点があった。

## 【0009】

【発明が解決しようとする課題】利用者が乗場でかごを待つ時間を極力短くして、特に冬季における開放廊下形集合住宅の場合など、利用者がかごを待ついらいらを低

減し、円滑な利用ができるエレベータを提供することを目的としている。

## 【0010】

【課題を解決するための手段】各階の乗場にかごの位置表示用の表示装置及び呼び登録用の押釦とよりなる呼び登録装置を設けたエレベータにおいて、前記表示装置及び押釦とからなるメインの制御系（呼び登録装置）とは別に、各居室内にサブの制御系（呼び登録装置）となるかごの位置表示用の表示装置及び登録用の押釦を設ける。

## 【0011】

【作用】このような構成にすると、居室内に設けた押釦により乗場まで行かなくても呼び登録が可能であり、かご位置の表示装置により、かごの位置を確認することで適確な押釦の操作が可能となり、乗場に到着したときに少ない待ち時間でかごに乗れることになる。

## 【0012】

【実施例】本発明を図1～図4に示す実施例に基づいて説明する。

20 【0013】集合住宅の各階床の居室9、9…に、呼び登録用押釦10とかご位置表示装置11を乗場とは別に設置する。そしてこれら乗場の押釦3、居室7の押釦10、かご位置表示装置11、かご内の行き先階指定用の押釦12、ドア開閉用の押釦13からの各信号を制御回路14に入力する。

【0014】制御回路からの出力側からは、前記入力側から与えられる各信号に基づき夫々指令信号を出し、かご昇降装置15、かご戸開閉装置16、乗場の表示装置4、かご内の表示装置17、居室7側のかごの表示装置4を作動制御するよう機能させる。

【0015】一方、居室7側となる呼び登録用の押し釦10及びかごの位置表示装置11は図1に示すごとく、乗場4に設けられた呼び登録用の押釦3及びかごの位置表示用の表示装置4からなるメインの制御系に対して別途設けられたサブの制御系となっている。この例ではエレベータ利用者は居室内で呼び登録釦を押すことができ、居室を出る前にかご位置を確認し、呼び登録釦を押し、かごの到着時刻を見計らって、居室を出ることにより乗場でのかご到着時間待ちを少なく出来る。

## 【0016】

【発明の効果】本発明により利用者の乗場での待ち時間が短くなり、かご待ちのいらいらが低減され、円滑な利用ができる。

## 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明によるエレベータを設けた共同住宅の平面断面図、

【図2】図1のII-II 線矢視図、

【図3】図1のIII 矢視図、

【図4】本発明による制御回路構成図である。

【図5】従来のエレベータを用いた共同住宅の平面断面

3

4

図、

【図6】図5のVI-VI 線矢視図である。

【符号の説明】

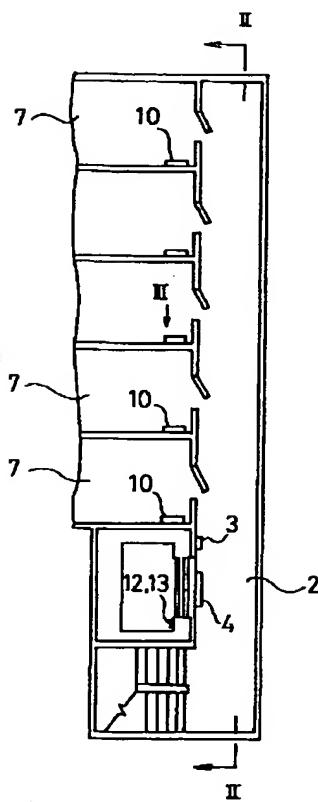
2…乗場

5…かご

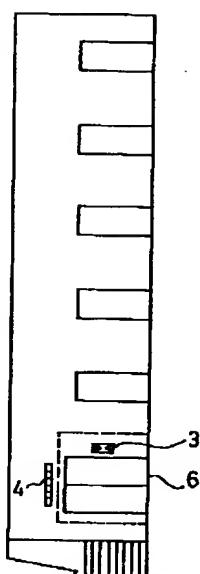
3、10…呼び登録鉤

4、11…かご位置表示装置

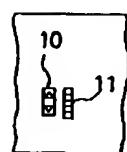
【図1】



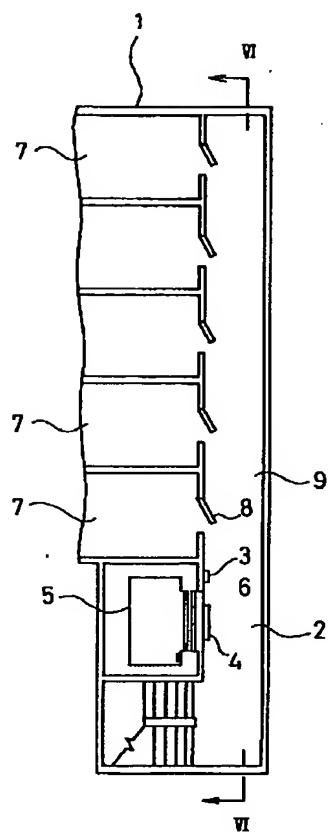
【図2】



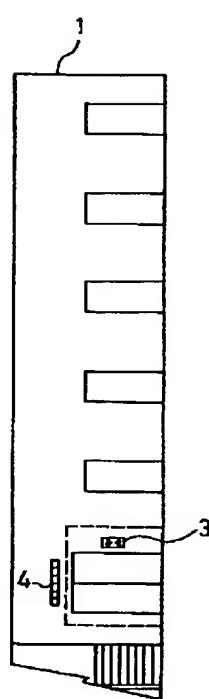
【図3】



【図5】



【図6】



【図4】

